ひびしん地域密着型金融推進計画進捗状況 (平成20年度の取り組み)

平成21年5月15日



「ひびしん地域密着型金融推進計画」の取り組みについて

福岡ひびき信用金庫では、平成19年11月に「ひびしん地域密着型金融推進計画」(平成19年度~20年度)を策定いたしました。今回は、平成20年4月から平成21年3月までの取り組み状況につきましてお知らせいたします。

この「ひびしん地域密着型金融推進計画」では、

- 1. 「ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化」
- 2. 「中小企業に適した資金供給手法の徹底」
- 3. 「持続可能な地域経済への貢献」
- 4. 「その他の取り組み事項(信用金庫に特に求められる事項)」

を「主要な柱」として取り上げております。

未来志向の望ましい金融システムを構築し、新しい金融サービスをお客様へご提供するために、上記の「主要な柱」に沿って、種々の施策に取り組んでまいりました。今後も、お客様の目線に立って、「何を行なうか」、「何ができるのか」を、地域の皆様と一緒になって考え、行動したいと考えております。

「ひびしん地域密着型金融推進計画」の概要

活き生きと! あなたと地域と "ひびしん" と 統一スローガン 活力のある地域社会の創生を目指して、地域と当金庫が連携して取り組みを行 なう。金庫の総合力を発揮して地域活性化支援やお客様のサポートを行なう。そ の結果、地域社会やお客様が活力を増し、ひいては当金庫も活力を増して来ると いう相乗効果の期待が込められたキーワードです。 経営理念 ライフサイクルに応じた取引先企業 健全経営と独自性発揮により、 繁栄ある未来を希い お客様のために地域のために の支援強化 「何をおこなうか」 「何ができるか」 活力ある地域社会 中小企業に適した資金供給手法の徹底 地域と共に歩む 持続可能な地域経済への貢献 地域社会の その他の取り組み事項(信用金庫に特に 求められる事項)

「ひびしん地域密着型金融推進計画」の取り組み状況(平成20年度)

	項		目	動機(経緯)	取り組み内容	成果(効果)	21年3月までの取り組 み状況に対する評価及 び今後の課題
1.	ライフサ	イクル	<mark>/に応じた取引先企業の</mark> 3	₹ 接強化			
	(1)	事業再	再生				
		1	中小企業再生支援協議	中小企業再生支援協議	21年1月に中小企業再	21年3月に中小企業再	【評価】中小企業再生支
			会の活用(全国組織の活	会版DDSによる再生可	生支援協議会に案件を持	生支援協議会版DDSを	援協議会版DDSは破綻
			用)	能性を中小企業再生支援	ち込み、株主責任、経営	行った。	懸念先を対象とした再生
				協議会と協力し支援する	者責任を組み込む経営計		手法であり、要旨を十分
				もの。	画書を策定した。協議会		理解し株主責任と経営者
					が計画書を検証後、取引		責任を明確にすることで
					金融機関に説明後計画案		活用できた。
					が了承された。		【今後の課題】今後も適
							宜取組む。
		2	DDSの活用	従来型DDSに比べ、	中小企業再生支援協議	中小企業で破綻懸念先	【評価】21年3月にDD
				20年11月7日に公表さ	会に再生計画を提出し、	に対する再生スキームと	S実行した。
				れた協議会版DDSは中	協議会から派遣された会	して協議会版DDSの、	【今後の課題】契約書を
				小企業再生手法として有	計士、中小企業診断士が	活用範囲は大きい。	精査しコベナンツを検証
				効と判断した。	計画を検証した。全取引		することでノウハウを蓄
					金融機関が再生計画を承		積する。
					認した。		

項		目	動機(経緯)	取り組み内容	成果(効果)	21年3月までの取り組 み状況に対する評価及 び今後の課題
	3	信用保証制度の適切な	事業再生先に対し支援	認証支援機関の指導や	DIPファイナンスに	【評価】今年度は取り組
		活用を踏まえたDIP	を目的として保証協会保	再生計画を策定した企業	ついて今年度は取り組み	みの実績はない。
		ファイナンスの活用	証付事業再生保証融資の	で再生の可能性が確認で	の実績はないが、過去平	【今後の課題】再生支援
			活用を推進するもの。	きれば対応する。	成 15 年度に 1 件 50 百万	先への運転資金需要に対
					円の取り組みを行った。	しては保証協会保証付事
						業再生保証融資の活用を
						検討する。
(2)	創業	• 新事業支援				
	1	新連携・産学官の連携	事業に対して前向きな	中小企業基盤整備機構	新連携は1先承認まで	【評価】平成 20 年度は、
			経営者に対してタイムリ	や各大学やベンチャーキ	支援を行った。産学官に	九州経済産業局が実施す
			一な支援ができるようパ	ャピタルと創業・新事業	ついては、継続的に情報	る「地域力連携拠点事業」
			イプ役となる。	進出について情報交換し	交換中である。	の委託を受け、実施した。
				ている。		【今後の課題】「地域力連
						携拠点事業」とは、中小
						企業の支援に関する専門
						的な知識、能力及び経験
						を有している応援コーデ
						ィネーターが中心となっ
						て、中小企業の課題解決
						の支援を行うもの。また、
						外部専門家や各支援機
						関、国・地方公共団体の
						支援施策等を活用しなが
						ら中小企業の支援を行
						う。

項	目	動機(経緯)	取り組み内容	成果(効果)	21年3月までの取り組 み状況に対する評価及 び今後の課題
	② 再チャレンジ信用保証	創業・新事業支援のた	創業者等からの資金相	現在のところ取扱実績	【評価】現在のところ取
	制度の活用	め、保証協会再挑戦保証	談があれば再チャレンジ	はないが今後も継続的に	扱実績はない。
		制度を主体に事業支援す	信用保証制度を検討す	行っていく。	【今後の課題】該当先が
		るもの。	る。		あれば再挑戦保証制度に
					ついて対応していく。
(3)	経営改善支援				
	① コンサルト能力・態勢の	中小企業診断士有資格	・各種セミナーや交流会	中小企業等が抱える専	【評価】当金庫職員向け
	強化やビジネスマッチ	者を中心に、外部専門家	への参加を積極的に行	門性が高い経営課題の解	研修や専門家とのネット
	ング (環境保護応援シリ	との連携を深め、研修の	い、中小企業診断士、	決に対しては、当金庫単	ワーク作りにより、取引
	ーズ) 等を活用した支援	充実と経営相談や支援能	弁護士、公認会計士、	独では対応、支援するこ	先である中小企業向け経
		カのレベルアップを図	税理士、民間コンサル	とが難しく、専門家と連	営改善支援のコンサル能
		る。	タント業者と連携し経	携しての経営改善支援を	力の向上には一定の成果
			営相談に対応する態勢	行っている。	を挙げた。
			を整備している。	専門家との情報交換や	【今後の課題】今後は引
			•平成 20 年度九州経済産	ネットワーク作りに対し	き続き各分野の専門家を
			業局地域力連携拠点事	ては一定の成果を挙げる	招き研修を実施し、幅広
			業への取組みを行って	ことが出来た。	い課題に対応出来るノウ
			いる。		ハウの蓄積を図ってい
			・各種セミナーの実施		く 。
			・ひびしんビジネスフェ		
			ア2009を実施		

項		目	動機(経緯)	取り組み内容	成果(効果)	21年3月までの取り組 み状況に対する評価及 び今後の課題
	2	国、地公体との連携によ	当金庫と中小企業基盤	韓国のポスティール向	22 . 24	【評価】国や地公体との
		る中小企業施策の活用	整備機構は、地域におけ	けのインゴット製造の		
			る中小企業への支援。ベンチャーの育成、産業用	ため呉の特殊鋼製造業 者であるA社が九州へ		活用や、当金庫の融資に 結びついたことは中小企
			地の活用の推進、共済制		権用の創出(100 石程度) や、事業の拡張に伴う関	
			度の普及・加入促進、そ		連企業の受注増加や新工	た。
			の他中小企業に役立つ情	会社を設立し(B社)	場の建設を請負うゼネコ	^-。 【今後の課題】業務連携
			報交換などの分野に係る	工場を新築することに		
			両者間での連携を円滑に	なったもので、平成 20	の波及効果が期待でき	や地域内における経済・
			するため、相互に協力し、	年9月にB社に対しエ	る。	金融情報及び事業活動等
			地域経済の活性化と中小	場建築資金として 10		に関する情報交換、その
			企業支援の促進に寄与す	億円の融資を実行し		他業務連携・協力に係る
			るもの。	た。		必要な事項等について協
				・上記B社の出資者であ		議や情報交換を行い、業
				るA社に対し、その出		務連携を推進する。
				資金 3 億円を融資し		
				た。また同A社に対し		
				ては進出により、福岡		
				県と北九州市より企業		
				立地促進交付金として		
				約7億円の助成金を受		
				ける予定である。		

項		目	動機(経緯)	取り組み内容	成果(効果)	21年3月までの取り組 み状況に対する評価及 び今後の課題
(4)	事業	継承				
	1	相続対策のコンサルタ	中小企業経営者の高齢	・業務提携先である日本	・事業承継支援の前提と	【評価】当金庫取引先か
		ィング、株式買取に関す	化が進む中、中小企業の	M&Aセンターやしん	しての企業価値評価方	らの事業承継にかかる相
		る資金面の支援やM&	廃業率が開業率を上回る	きんキャピタルへの事	法については、整備を	談を受け付けているが、
		Aのマッチング支援	など、中小企業数は趨勢	業承継案件の相談	行っている。	いまだ十分な対応が出来
			的に減少している。しか	・事業承継セミナーの開	・地域のブリッジファン	てはいない。
			し、廃業した企業の中に	催	ドへの出資を行い、現	【今後の課題】今後も引
			は、他社への売却や後継	・地域のブリッジファン	在ファンドのGPとの	き続き、各種研究会・セ
			者が存在したならば事業	ドへの出資	情報交換や支援体制の	ミナーに参加し、ノウハ
			継続可能であった企業も	・平成 15 年 1 月 28 日し	整備を行なっている。	ウの蓄積、ネットワーク
			存在する。地域金融機関	んきんキャピタル、日	・取引先X社に対して、	の構築に取り組んでい
			として事業承継を積極的	本M&Aセンター、会	他社の事業買取資金の	く 。
			に支援し、地域経済活性	計事務所及び当金庫と	ファイナンスを実施。	
			化を行う。	の4者にて契約書を締	被買収企業は事業廃業	
				結し、顧問弁護士や司	の回避が可能となり、	
				法書士等と相談できる	買収企業はシナジー効	
				体制を構築	果により、業績堅調に	
					推移している。	

項目	動機(経緯)	取り組み内容	成果(効果)	21年3月までの取り組 み状況に対する評価及 び今後の課題
② 法務、財務、税務等の部専門家と連携したり組み		ンドへの出資 ・地域力連携拠点事業 への取り組み	外部専門家との協力・ 連携体制は整備されつ つある。今年度は、地	【評価】事業承継の相談に対して、外部専門家を派遣した実績はないが、外部専門家との協力・連携体制は整備されつつある。 【今後の課題】今後も引き続き各種研究会・セミ

	項	目	動機(経緯)	取り組み内容	成果(効果)	21年3月までの取り組 み状況に対する評価及 び今後の課題
2.	中小企業	に適した資金供給手法の徹底				0.71女の床屋
,	(1)	目利き機能の向上をはじめ事	業価値を見極める融資=	不動産担保・個人保証にi	過度に依存しない融資の	 敬底
		① 会計参与制度の活用や	平成18年5月の会社法	TKC北九州支部と提	TKC北九州支部と提	【評価】会計参与制度の
		「中小企業の会計に関	施行により、会計参与制	携して、会計参与制度の	携して、TKC会員税理	普及や中小企業会計の精
		する指針」の普及	度が創設され、また「中	普及や中小企業会計の精	士の推薦を受けた中小事	度向上を推進するため、
			小企業の会計に関する指	度向上を推進する。	業者を対象に新商品を開	TKC北九州支部と提携
			針」が公表された。中小		発した。20 年度は、3 件	した。
			企業会計の質的向上には		3,500 万円実行した。	【今後の課題】提携商品
			普及を推進する必要があ			をステップに組織的に普
			る。			及を推進する。
		② 動産・債権譲渡担保融	担保、保証、連帯保証	平成 19 年A社に対し	信金中央金庫と連携し	【評価】信金中央金庫と
		資、ABL等の活用	人に過度に依存せず、企	「しんきんMeサポー	た「しんきんM e サポー	連携した「しんきんM e
			業の財務内容や将来性に	ト」の第1号として当座	ト」の取扱を19年3月に	サポート」の取扱により
			着目し、又資金ニーズに	貸越にて 30 百万円の取	開始した。本制度のスキ	ある程度のノウハウは蓄
			対応していくため的確に	扱を行った。又信用保証	ームは、信金中央金庫が	積できた。
			対応していく。	協会保証付ABLの取扱	当金庫と取引先との対象	【今後の課題】一番の検
				開始し現在まで3件50百		討課題はモニタリングで
				万円の取扱いがある。(平	譲渡担保として提供する	あるが、この点について
				成 20 年度は 2 件 20 百万	設備の価値相当額の限定	は引続き信金中央金庫の
				円)	根保証を行い、信金中央	指導を仰ぎながら、併せ
					金庫の当該保証債務をリ	てコンサルタントや信販
					ース会社が保証するもの	会社等との提携により習
					であるが、取扱によりあ	得を図りたい。
					る程度のノウハウは蓄積	
					できた。	

項		目	動機(経緯)	取り組み内容	成果(効果)	21年3月までの取り組 み状況に対する評価及 び今後の課題
	3	様々なコベナンツの活	適切に債務者の経営等	今年度はコベナンツ条	現在、コベナンツ条項	【評価】財務制限条項を
		用	を制限・監視することで	項付与の融資を 3 先実行	を付した融資先は 12 先	含むコベナンツ条項につ
			事業キャッシュフローや	した。	あるがいずれもシンジケ	いて相応の知識は修得で
			バランスシートを一定の		ートローンとしての取り	きた。また、パソコンに
			水準に維持することでリ		組みであり、すべてレン	よるコベナンツ管理シス
			スクを低減させること。		ダーとしての参加であ	テムの整備を行った。
					る。財務制限条項を含む	【今後の課題】今後は、
					コベナンツ条項について	信用リスクの計量化と並
					相応の知識は修得でき	び、コベナンツの活用を
					た。又パソコンによるコ	さらに進めたい。
					ベナンツ管理システムの	
					整備を行った。	

項	目	動機(経緯)	取り組み内容	成果(効果)	21年3月までの取り組 み状況に対する評価及 び今後の課題
(2)	中小企業に適した資金供給手	法の徹底			
	① シンジケートローンの活	当金庫のシンジケート	・シンジケートローンに	シンジケートローンに	【評価】取扱に当たって
	用	ローン第 1 号は、平成 17	ついては、全てレンダ	ついては、現在 15 社・32	は、仕組みや他行の取扱
		年5月に北九州市に対し	一としての参加である	先の取扱がある。内容は、	状況とリスク面も併せ、
		取り組みをしたもので、	が、近年は独立行政法	地公体向けのほか、PF	信金中央金庫の指導を受
		方針としては担保・保証	人に対する融資が増加	I 融資、ノンリコースロ	けながら、審査部内でも
		に過度に依存しない融資	した。	一ン、コミットメント型	勉強会を行い、習得を図
		として、又シンジケート	・シンジケートローンと	シンジケートローン等各	った。特に、コベナンツ
		を組むことでリスクの分	して以下の融資を行っ	種融資あり。コベナンツ	管理については不十分で
		散が図れる等によるもの	た。	管理も含め相応のノウハ	あったが、平成 21 年 2 月
		である。	・地公体に対し 26 億円を	ウは修得できた。	にコベナンツ管理要領を
			実行した。		制定し、パソコンでのシ
			・独立行政法人 2 社に対		ステム管理の構築を行っ
			し 1,050 百万円の融資		た。
			を実行した。		【今後の課題】今後も企
			・A社、B社、C社の 3		業の将来性や返済原資を
			社に対し合計 17 億円		確実に把握し、リスクに
			を実行した。		ついての意識付けを行い
					信用コストは発生しない
					様十分な管理を行ってい
					きたい。

	項	目	動機(経緯)	取り組み内容	成果(効果)	21年3月までの取り組 み状況に対する評価及 び今後の課題
		② 新TKC提携ローンの開	中小企業の税務・会	TKC北九州支部と定	平成 20 年 8 月 1 日よ	【評価】「スクラム」につ
		発	計・経営に関する相談相	期的な会合を開き中小企	り、中小企業経営者・税	いては、取扱件数は数件
			手として税理士は非常に	業支援に対する各種連携	理士・福岡ひびき信用金	であった。
			重要な役割を果たしてい	(ビジネスマッチング・	庫が一体・相互協力して、	【今後の課題】今後は、
			る。税理士の専門家組織	セミナー等)の検討や共	企業の経営計画策定を行	当金庫職員やTKC会員
			であるTKCの会員との	同で新規融資商品の開発	い、その計画に基づき妥	相互について、理解は深
			連携をより深め、精度の	を研究した。	当性に基づき融資を行う	め取り組みを強化してい
			高い財務分析を行い、併		提携新融資商品「スクラ	く。また、融資商品の取
			せて顧客の定性情報を十		ム」を開発・販売した。	り扱いだけに止まらず、
			分に考慮し、中小企業の		また、TKCの会員税理	TKC会員と相互連携し
			資金ニーズに対するも		士が講師として事業承継	た中小企業支援体制を進
			の。		セミナーを 5 回実施し	め、地域の中小企業の活
					た。	性化に資する。
3.	持続可能	な地域経済への貢献				
	(1)	地域の面的再生				
		① 地域経済全体を展望し	地域経済全体の活性化	平成19年10月より「北	「北九州市中心市街地	【評価】少数であるが、
		たビジョン策定への支	は地域金融機関としての	九州商工会議所 まちづ	活性化協議会」「北九州市	出来うる限りの派遣、参
		援	使命であり、当然、取組	くり推進課」に職員を 1	基本構想を考える市民会	加を行った。
			んでいくべきものである	名派遣(平成 22 年 3 月	議」「北九州市にぎわいづ	【今後の課題】21 年度は
			ため。	31 日まで派遣)。	くり懇話会」に参画	北九州市の小倉、黒崎地
				北九州市が取り組む小		区の商店街を中心とした
				倉、黒崎地区市街地活性		活性化、街づくり構想が、
				化推進構想事業に協力し		実現化に向け展開される
				ている。		ので、情報を密にし、積
						極的に取り組んでいく。

項		目	動機(経緯)	取り組み内容	成果(効果)	21年3月までの取り組 み状況に対する評価及 び今後の課題
	2	「公民連携」へのコーデ	地域金融機関の使命と	北九州市主催のひまわ	20年度ひまわり塾、生	【評価】少数であるが、
		ィネーターとしての参	して、地方公共団体主催	り塾、生涯学習塾への参	涯学習塾へ各々1名参加。	出来うる限りの派遣、参
		画	の各種事業には、積極的	加、中小企業基盤整備機	中小企業基盤整備機構	加を行った。
			に参画してきており、今	構への職員の派遣、北九	へ職員1名派遣(平成19	【今後の課題】今後とも
			後とも継続していく。	州ビジネスコンテスト参	年4月~21年3月)	出来うる限り派遣、参加
				加、北九州ベンチャーイ	北九州ビジネスコンテ	していく。
				ノベーションクラブの事	スト参加。	
				業会員等に参画してい		
				る。		
	3	商工会議所が実施して	北九州商工会議所自体	商工会議所が人材紹介	商工会議所が着手して	【評価】商工会議所が着
		いる人材紹介事業等と	まだ取り組みがなされて	事業に着手すれば、情報	おらず成果なし。	手しておらず成果なし。
		の連携	いないが、地域経済への	の共有、連携を密にし、		【今後の課題】情報を収
			貢献にむけ、協力してい	積極的に取り組んでい		集し対応する。
			< ∘	< ∘		
	4	北九州市が進める企業	北九州市の人口減少を	当金庫取引先の不動産	中古住宅の経済的価値	【評価】20年度は、区分
		誘致に伴う従業員向け	防ぐには企業誘致が重要	業者は、北九州市が進め	検証の目利き力は向上し	所有中古マンション 12
		住宅確保と、市内中古住	な施策であり、誘致企業	る企業誘致に伴う従業員	た。	件の実績、21 年度は 30
		宅活性化を図るため、住	の従業員向け住宅を確保	向けの住宅確保と中古住		物件目標に推進する。
		宅管理会社と連携する。	するための地元住宅管理	宅の活性化を目標に掲げ		【今後の課題】今後も
			会社等と情報、金融面で	ており、当金庫が推進す		北九州市の様々な地域カ
			連携を強化し、中古住宅	る地域密着型金融に合致		と連携を行う。
			等の活性化を図る。	するもので、中古住宅流		
				通活性化のための情報交		
				換を行う。		

項	目	動機(経緯)	取り組み内容	成果(効果)	21年3月までの取り組 み状況に対する評価及 び今後の課題
(2)	地域活性化につながる多様な	サービスの提供			
	① 地域を担う若い世代や	地域のために貢献する	若い世代に対しては、イ	インターンシップ受入	【評価】年間スケジュー
	高齢者への金融知識の	ことは地域金融機関とし	ンターンシップの大学生	2 名。職場体験学習とし	ルどおりに実施
	普及	ての使命であり、今後も	を 2 名受入、福岡県生活	て中学生 1 名受入。年金	【今後の課題】今後も高
		積極的に貢献していく。	労働部労働局主催就職ガ	相談会各地区で年 25 回	齢化をむかえ、さらに充
			イダンスパネラーとして	開催、資金運用相談会各	実した内容にしていく。
			参加。北九州市立浅川中	地区で年31回開催、効果	若い世代へは金融知識の
			学より職場体験学習とし	があった。今後も継続し	普及として職場訪問実習
			て生徒1名受入。高齢者	て実施する。	を、中学校、高校へ働き
			には年金相談会、資金運		かけていく。
			用相談会を開催した。		
	② コミュニティ・ビジネス	人口減少が進む地域で	定例の融資会議でNP	平成 20 年度は 6 件	【評価】NPO法人でも
	やNPOへの支援・融資	の活性化には、NPO法	O法人に対する基本姿勢	3,440万円実行した。	雇用を確保し、収益を上
	(マイクロファイナン	人への融資にも取り組む	を営業店に周知させてい		げる事業体であることを
	ス的な取組み等)	必要性が大きい。地域金	る。代表者の事業構想を		認識し対応している。
		融機関として事業目的が	確認し、NPO法人でも		【今後の課題】21年度は、
		確率し、社会的資本の役	収益性や事業継続性が十		環境分野のNPO法人等
		割を持つNPO法人に対	分に検証できれば取り組		にも取り組む。
		して信用金庫の金融機能	む。		
		の責務を果たす。			

	項	目	動機(経緯)	取り組み内容	成果(効果)	21年3月までの取り組 み状況に対する評価及 び今後の課題
4.	その他の	取り組み事項(信用金庫に特に求め	かられる事項)			
4.	(1)	日利き能力の向上、人材の育成	地域の中小、零細企業への的確な指導と、企業の将来性、技術力を確に評価できる能力の向上を図り、信用リスク管理の徹底と地域の中小企業の発展に貢献するため。	修を年間スケジュールに 基づき実施、その他、外 部研修に職員を派遣し	名)、審査トレーニー1 講座 (24 名)、内部講座 2 講座 (184 名) 外部講師 による渉外目利き研修 1	上に努めたが、完全とは

項	目	動機(経緯)	取り組み内容	成果(効果)	21年3月までの取り組 み状況に対する評価及 び今後の課題
(2)	身近な情報提供・経営指導・相談				
	① 公的制度等に係る情報	中小企業基盤整備機構	・19 年 4 月より中小企業	・「新連携支援制度」に係	【評価】「新連携支援制
	提供	と業務連携を行い、地域	基盤整備機構に「新連	る、九州経済産業局の	度」に係る支援の仕組み
		における中小企業への支	携支援制度」サブマネ	認定に向けて、北九州	に関しては、概ね成果が
		援、ベンチャーの育成、	ージャーとして1名を	市が2社、大分県2社	得られた。
		産業用地の利用・活用の	派遣し、技術力を持ち	の支援を行い、事業計	【今後の課題】今後は中
		推進、共済制度の普及・	ながらも単独では経営	画書や事業戦略策定に	小企業基盤整備機構との
		加入促進、その他中小企	資源が少ない中小企業	対する支援手法の取得	業務連携に係る具体的方
		業に役立つ情報交換など	が、企業間や大学ある	ができた。	策の協議及び地域内にお
		の分野に係る両者間での	いは公的支援機関との	・九州域内の県や市等の	ける経済・金融情報及び
		連携を円滑にするため、	連携を図り、事業を推	行政機関、中小企業団	事業活動動向等における
		相互に協力し、地域経済	進していく際に、様々	体中央会や工業技術セ	情報交換の強化を図って
		の活性化と中小企業支援	な支援を行うことによ	ンター等の支援機関、	いく必要がある。
		の促進に寄与する。	り、その支援手法の修	政府系及び民間金融機	
			得を行い、併せて各支	関とのコミュニケーシ	
			援機関等とのコミュニ	ョンを密にし、連携強	
			ケーションの充実を企	化が図れた。	
			図する。		
			・中小企業基盤整備機構		
			の様々な機能を活用		
			し、連携して中小企業		
			の支援を行う。		

						21年3月までの取り組
項		目	動機(経緯)	取り組み内容	成果(効果)	み状況に対する評価及
						び今後の課題
	2	資金繰りや売上げ等に	中小企業の経営改善を	・平成 20 年 5 月より取り	様々な外部研修や内部	【評価】年間スケジュー
		係る経営改善指導	行っていくには中期の改	組んでいる地域力連携	研修を経て、営業店にお	ルどおりに実施した。
			善計画を立案しその企業	拠点事業の一環とし	いても取引先に対する財	【今後の課題】中小企業
			の力やノウハウなどの強	て、TKC北九州支部	務内容などから実務的な	経営者に対し財務だけで
			みを明確にし、確実な経	と連携して、平成 20 年	業務改善指導について意	はなく、経営と財務の両
			営管理を実施しながら改	10月29日、11月5・	識の高揚が図られてい	面から粘り強くアプロー
			善に取り組む。	12・19日、12月3日の	る。	チを行い、計画と立案だ
				計 5 回に亘り、事業承		けでなく、計画に対する
				継セミナーを開催		実行の進捗状況を把握す
				・当金庫の中小企業診断		る。
				士2名を講師に、営業		
				店渉外担当者を対象に		
				した「企業実務分析能		
				力向上講座」を 20 年 6		
				~8月、21年1~3月の		
				各月2回、合計12回実		
				施		
				・保証協会OBを招いて		
				財務分析講座を実施。		
				・毎年実施している審査		
				トレーニーを本年も融		
				資担当者、渉外担当者		
				を対象に年間6回実施		

項		目	動機(経緯)	取り組み内容	成果(効果)	21年3月までの取り組 み状況に対する評価及 び今後の課題
	3	財務書類の作成、後継者	中小企業診断士有資格	•平成 20 年 5 月より取り	企業は何らかの課題を	【評価】年間スケジュー
		育成等に係る相談	者や外部専門家による研	組んでいる、地域力連	抱えているが特に後継者	ルどおりに実施した。
			修を充実させ、取引先か	携拠点事業として、T	問題、事業承継について	【今後の課題】今後とも、
			らの課題や経営相談に対	KC北九州支部と連携	はセミナーに参加の全員	中小企業の発展と地元経
			し、対応できる能力のレ	し、平成 20 年 10 月 29	の方が課題として考えて	済の活性化に寄与するこ
			ベルアップを図る。	日、11月5日、12日、	おられ、セミナーでの研	とを目的とし、各種研修
				19日、12月3日の計5	修や企業実務分析能力講	会への出席と当金庫の地
				回に亘り、事業承継セ	座を通じ一層の意識の高	域力連携拠点事業として
				ミナーを開催した。	揚が図れたものと思われ	の各種セミナー開催によ
				・当金庫の中小企業診断	る。	りレベルアップを図って
				士2名を講師に、営業		いきたい。
				店渉外担当者を対象に		
				した「企業実務分析能		
				力向上講座」を 20 年 6		
				~8月、21年1~3月の		
				各月2回、合計12回実		
				施した。		

項	目	動機(経緯)	取り組み内容	成果(効果)	21年3月までの取り組 み状況に対する評価及 び今後の課題
(3)	顧客ニーズを踏まえた融資商	時代の要請あるいは問	• 環境保護	・「グリーン積金」	【評価】各種金利優遇商
	品・目的別ローン等(環境保護、	題点に取り組んだ商品を	京都議定書の発効を受	募集実績 2,288 口	品は預貸金ともに、好評
	子宝、団塊世代 応援3シリー	提供すべく、検討・開発	けて、地球環境の保護	2,672 百万円(契約額)	を得ており、金庫のCS
	ズ)の提供	されたもので、CO2削	に協賛する商品として	・「エコひびき」	Rとしての取り組みは評
		減、少子高齢化、団塊世	「グリーン積金」を発	募集実績 7,422 口	価できるものと思われ
		代の定年と現在の社会に	売、地球温暖化防止に	12, 239 百万円	る。
		おいて、対応を迫られて	対する取り組みとし	・「子宝住宅」	【今後の課題】収益状況
		いる課題に対する商品の	て、環境応援定期預金	20 年度 328 件	が厳しい中、他の一般顧
		開発	「エコひびき」を発売、	6,872百万円 (実行額)	客の取込みも強化してい
			両キャンペーンの趣旨	・「子宝教育ローン」	かねばならない。子宝シ
			を踏まえ、自然環境保	20 年度 46 件	リーズや団塊世代応援シ
			全活動の一環として、	58 百万円(実行額)	リーズは、ある程度顧客
			環境団体へ寄付を行っ	・「子宝積金」	のニーズを反映している
			た。	20 年度 932 口	が、環境保護支援策につ
			・子宝	951 百万円(契約額)	いては、さらなる研究の
			少子化対策を受けて、2	• 団塊世代応援定期預金	余地が必要と思われる。
			人以上のお子様を扶養	<セットプラン>	環境保護に関する知識、
			しているお客様に、住	20 年度 114 件	産・学・官との連携、人
			宅ローン・教育ロー	239 百万円	材の確保等、解決すべき
			ン・定期積金の金利を	<定期預金のみ>	課題がまだまだある。
			優遇する。	20 年度 1,647 件	
			・団塊世代応援シリーズ	7, 291 百万円	
			団塊世代の退職金等の		
			運用に利用していただ		
			く商品を発売。		

					21年3月までの取り組
項	目	動機(経緯)	取り組み内容	成果(効果)	み状況に対する評価及
					び今後の課題
(4)	個人・小規模事業者の資金ニー	地域住民へのサービス	・住宅ローンセンターで	・TKC北九州支部の税	【評価】当金庫内および
	ズに対するきめ細やかな対応	と地域貢献としての情報	の相談受付、業者との	理士からの紹介実績	TKC北九州支部内に
		発信元となるべく、また、	連携あるいは業者向け	(平成 20 年度)	おいて、本商品のコン
		利用しやすい金融環境を	商品説明会等を実施	紹介件数:19 先、融資	セプト『地域中小事業
		醸成するために、商品開	· T K C 北九州支部会員	実行件数:12 先、融資	者の活性化をいかにし
		発、ローンセンターの拡	とタイアップし、TK	実行金額:96百万円	て果たすのかという理
		充および販売チャネルの	C提携ローン「スクラ	うち、TKC提携ロー	念のもと、当金庫とT
		多様化を検討・推進して	ム」の取扱いを平成 20	ン「スクラム」実績	KC北九州支部会員と
		いく。	年8月から開始した。	融資実行件数:3 先、	がタイアップし、リレ
			本商品は、地域中小事	融資実行金額:35百万	ーションシップバンキ
			業者の活性化をいかに	円	ングを実行していく』
			して果たすのかという	・「クイックサポート」の	が浸透していなかった
			理念のもと、TKC北	実績(平成20年度)	のは、否めない。
			九州支部の会員税理士	融資実行件数:296 先、	【今後の課題】今後は、
			と当金庫との職員で半	融資実行金額: 2,707	当金庫内の諸会議にてコ
			年の間議論を重ねた	百万円	ンセプトを徹底させてい
			末、創りあげた商品で		き、またTKC北九州支
			ある。		部との緊密な打合せを行
			・小規模事業者向け事業		い、地域事業者へと浸透
			資金における担保・保		させていく。また、格付
			証に頼らない商品とし		けによる事業性融資につ
			てクイックサポート」		いては、目利き能力を養
			を発売。		成して融資の拡大を図る
					必要がある。

:	項	目	動機(経緯)	取り組み内容	成果(効果)	21年3月までの取り組 み状況に対する評価及 び今後の課題
	(5)	総代会の機能向上等に向けた取り組み	・総イスクタン ・総代代代代名 はフロン ・総代代代名 ・総代代代名 ・総代代名 ・総代代名 ・総代代名 ・総代代名 ・大は ・大は ・大は ・大は ・大は ・大は ・大は ・大は	・ が	・ディスク実 ・福岡ひなりとは、一ジャーののできに、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では	記総代会開催にあたり、 希望により一般会員も傍 聴させ、開かれた総代会

項	目	動機(経緯)	取り組み内容	成果(効果)	21年3月までの取り組 み状況に対する評価及 び今後の課題
(6)	半期開示の充実に向けた取り組み	・バーゼル II への対応 ・お客様目線のディスク ロージャー誌の作成	バーゼルIIへの対応した適正な自己資本比率を開示するため、自己資本 比率算出の手順書を制定した。	・本ディスクロージャー 誌を発行(20 年 7 月)	び今後の課題 【評価】年間スケジュールどおりに実施 【今後の課題】今後も「理念と成果が共に伝わる開示」を目指し、バーゼルⅡへの対応(第三の柱)及びお客様目線のディスクロージャー誌の充実を

項	目	動機(経緯)	取り組み内容	成果(効果)	21年3月までの取り組 み状況に対する評価及 び今後の課題
	法令遵守の徹底	・不正・不祥事件等の未 ・不正・不 ・不再 ・不再 ・不再 ・行成 ・一 ・一 ・一 ・一 ・一 ・一 ・一 ・一 ・一 ・一	・全部署へのと関係をは、できませんのと、とのでは、できまり、できまり、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないできないできないできないできないできないできないできないできないできない	・部店内では、	【今後の課題】コンプライアンスの重要性の認識で温度差が見受けられるため、引き続きコンプライアンス責任者・担当者